

# VMware 導入事例



## イサム塗料株式会社

「現状打破」をスローガンに、全社員が付加価値の高い製品やソフトの開発を探求しているイサム塗料株式会社では、今やITの活用は不可欠となっています。自動車補修用塗料を中心に、建築用、工業用、汎用塗料など、さまざまな分野で事業を展開する同社は、全社システムの刷新にネットワールドが提供する「VMware ESX Server」を採用。これにより、高い費用対効果とメンテナンス性、拡張性を実現しています。今後、滋賀工場をはじめ、各支店に展開される同システムの基盤としても期待が高まっています。

## VMwareによる集中管理の実現により 会社の身の丈にあったシステムを構築



イサム塗料株式会社  
取締役 情報システム担当  
北村 倍章 氏



株式会社大塚商会  
LA事業部 関西販売1課  
課長  
奥山 英夫 氏



株式会社大塚商会  
LA事業部 関西営業部  
関西販売1課  
田口 祐子 氏

### 21世紀にふさわしい活動を展開 塗装事業からの飛躍を目指す

世界トップレベルの品質と実績を誇る自動車補修用塗料を中心に、建築用、工業用、汎用塗料など、さまざまな分野で事業を展開するイサム塗料株式会社。東京、大阪、名古屋、福岡に支店を、札幌、仙台、広島に出張所を持ち、日本全国を網羅する販売ネットワークと、顧客の要望に応える物流／サービス体制を確立。2000年5月には、生産拠点となる滋賀工場を最新の工場に一新し、生産体制を強化した。

また、顧客とのコミュニケーションを大切に、塗料／塗色情報はもちろん、塗装全般のソフト開発および教育研修など、時代のニーズに応じた、きめ細かでトータルな活動を展開。21世紀に入り、「製造・販売・塗装」という基本事業からさらに大きく飛躍し、「カラー産業」「コーティング産業」「機能性向上素材産業」に事業を拡大。塗料産業を飛躍させ、「環境・安全・健康」に配慮した製品やソフトの開発を目指している。

### 2000年問題で導入したシステムを VMwareで刷新--集中管理を可能に

顧客のニーズを第一に考え、常に「現状打破」をスローガンとして全社員が付加価値の高い製品の開発を探求しているイサム塗料では、今やITの活用は不可欠だ。しかし同社のITシステムもいくつかの課題を抱えていた。

イサム塗料 取締役 情報システム担当 北村倍章氏は、「2000年問題に対応するために

導入したシステムのリース期間および保守期間が終了したことで、システムを全面的に見直すことが必要でした」と語る。

リース・保守切れによるシステムの見直しは、同社にとって急務だった。しかし、すべてを最新のハードウェアにリプレースするには予算がいくらあっても足りない。また、システムの拡張に伴い乱立したサーバがシステム全体を複雑化し、運用管理を煩雑にしていた。さらにサーバが増えるたびにTCO（総保有コスト）の増加を招いていた。

「可能な限りサーバの数を減らしたいと考えていました。しかしシステムの運用上、サーバの数を減らすことはできません」と北村氏。そのため既存のシステムを大きく変更することなく、新しいシステムに切り替えるにはどうすればよいかシステム刷新において最大のポイントとなっていた。

「ハードウェアの刷新とソフトウェアの刷新は切り分けたいと思っていました。このような課題を解決できる仕組みとして仮想化が有効だと考えたのです」と北村氏は話している。

今回、イサム塗料が導入したのは、2台のVMware ESX Server上で19台の仮想マシンが稼働し、Virtual Centerを使用して集中管理を行うシステム。19台の仮想マシンの内訳は、Linuxマシンが4台、Windows XPマシンが6台、残りはWindowsサーバが稼働している。

仮想マシンの用途は、外向けのWebサーバやメールサーバ、各種業務システム、オフィススイートなど、ほとんどの社内システムが仮想

### イサム塗料株式会社

本 社：大阪市福島区鷺洲2-15-24  
創 業：1927年4月  
資 本 金：12億9040万円  
売 上 高：87億円  
従業員数：207名（2006年3月現在）  
U R L：http://www.isamu.co.jp/  
業務内容：業務内容：塗料・溶剤・建材・塗料用の機械器具、  
塗装室の製造・販売、塗装工事および防水工事  
の設計施工および請負

### <パートナー概要>

#### 大塚商会

本 社：東京都千代田区飯田橋2-18-4  
創 業：1961年7月17日  
資 本 金：103億7485万1000円  
売 上 高：4094億円  
U R L：http://www.otsuka-shokai.co.jp/

## VMware導入事例

マシン上で動作している。EDI(電子データ交換)システムなど、社外向けシステムも2006年11月中には仮想マシン上に移行される。

### 集約率や性能、安定性を評価してVMwareとVirtual Centerを採用

イサム塗料がVMware ESX Serverを採用したのは、1台あたりの集約率が高いことや高いパフォーマンスを維持できること、安定した運用管理が可能なことなど。しかし最大の理由は、北村氏自身がこれまでに数多くのシステムでVMwareを活用してきた実績だ。

北村氏は、「VMwareは前職から使っていました。今回は仮想化が不可欠だと考えていたので、VMwareの導入にためらいはありませんでした」と話す。仮想化の概念を理解し、VMware WorkstationおよびVMware GSX Serverに関してはノウハウを持っている北村氏だったが、VMware ESX Serverを使うのは初めてだった。

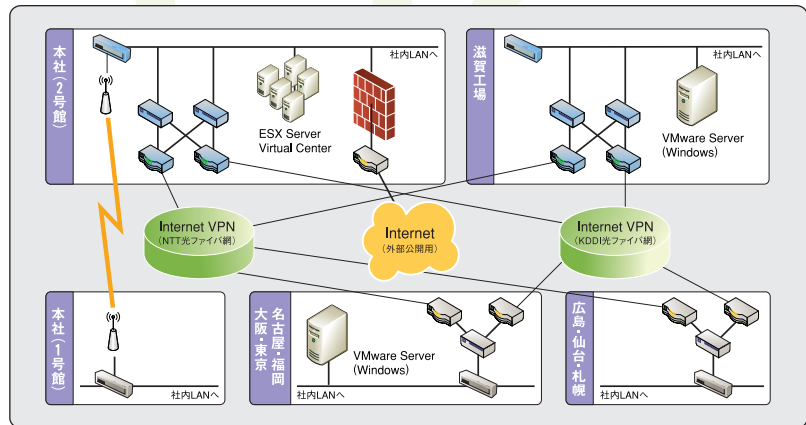
そこでハードウェアの導入やシステムの構築に関して株式会社大塚商会にサポートを依頼した。大塚商会がパートナーに選ばれたのは、コスト面はもちろん、技術サポートやこれまでの実績、ノウハウなどを検討した結果だった。

大塚商会 LA事業部 関西販売1課 課長 奥山英夫氏は、「VMwareを使った仮想化では、ハードウェアとソフトウェアのつなぎの部分が重要です。このつなぎの部分の支援が必要になります」と言う。また同事業部の田口祐子氏は、「最適なコストで、できること、できないことを明確にすることが我々の役目だと思っています」と話している。

北村氏は、「我々の身の丈にあったシステムを提案してもらえることから大塚商会にサポートをお願いすることに決めました。お金をかければ良いシステムが実現できるのは当たり前ですが、企業の身の丈にあったシステムを導入することが重要です」と話している。

### VMwareの導入効果は費用対効果と高いメンテナンス性

イサム塗料では、2005年11月頃からハード



ウェアを導入し、2005年中に VMware ESX Serverを設定。年明けからアプリケーションを稼働し、2006年3月より本格運用を開始した。北村氏は、「VMwareを使った経験があったので、あまり苦労することなくシステムを導入できました。それだけVMwareの完成度が高いということかもしれません」と話す。

VMware ESX Serverを導入した効果は、大きく2つ。業務中にメンテナンスが可能なことと、費用対効果が高いことだ。

実は、北村氏がVMware ESX Serverを採用したもうひとつの理由にVMotionとVirtual Centerを使用したシステムの集中管理を実現したことがある。VMotionを使用することで、通常の業務中でもシステムをメンテナンスすることが可能だ。

北村氏は、「基幹システムなので、とにかく止めたくありませんでした。VMotionを使用すれば、稼働中のシステムをすべて別の仮想サーバに移し、メンテナンスして本番用の仮想マシンに戻すという作業が業務中に可能です」と話している。

一方、費用対効果について北村氏は、「Virtual Centerにより2台のVMware ESX Serverを管理するだけで19台のサーバが集中管理できるということは、単純計算すれば費用対効果が10分の1になったといえます。10分の1は言い過ぎでも、物理的な設置スペースのコストや消費電力、さらには保守料金のことなどまで考慮すると、それくらいの効果はあると思っています」と言う。

イサム塗料では現在、滋賀工場など本社以外にも無償のVMware Serverを導入し、システムの仮想化を行っている。今後は、滋賀工場などにも本社と同じ仕組みを導入する計画。また当初、VMware ESX Serverのバージョン2.5.3とVirtual Centerのバージョン1.3を導入していたが、2006年11月中にはVMware ESX Serverをバージョン3.0.1に、Virtual Centerをバージョン2.0.1にバージョンアップする予定だ。

北村氏は今後の展開について、「ようやくインフラが整ったので、今後はシステムの中身を充実していきたいと思っています。特に、システム担当者の仮想化のスキルを向上し、仮想化のメリットをより生かせる体制を確立していきたいと考えています」と話している。

### お問い合わせ先

 **Networld**  
株式会社 ネットワールド

E-mail: [vw-info@networld.co.jp](mailto:vw-info@networld.co.jp)  
URL: <http://www.networld.co.jp/>

本 社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-4  
オリックス神保町ビル  
TEL:03-5210-5031,5020  
FAX:03-5210-5033,5177

西日本事業所 〒590-0047 大阪府北区西天満4-14-3  
住友生命御堂筋ビル  
TEL:06-6367-5631 FAX:06-6367-5633

名古屋営業所 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南1-23-3  
第2アスタービル  
TEL:052-588-7611 FAX:052-588-7610

九州営業所 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-6-1  
九勲建築通ビル3階  
TEL:092-461-7815 FAX:092-461-7816



この印刷物は大豆油インキ・再生紙を使用しています。

\*記載されている会社名および製品名、ロゴは各社の商標または登録商標です。  
2006年12月